

1. 昔々、イエス様の時代のイスラエルに、ちょっと派手な女の人がおりました。お化粧品はバッチリ、アクセサリーをつけて、男の人たちの視線を釘付けです。
2. 町の男の人たちは、み～んなこの女の人を好きになっちゃいます。あの人もこの人も、誰もがこの女の人に夢中になってしまうんです。だからこの女の人、たくさんボーイフレンドを作って、毎日面白おかしく過ごしていました。
3. 中には、奥さんがいるのに、この女の人に夢中になってしまう男の人もいたんですよ。
4. そんなある日、とうとうこの女の方は、律法学者やパリサイ人と呼ばれる人たちに捕まってしまいました。律法学者やパリサイ人っていうのは、イスラエルの政治家だとか身分の高い人たちのことです。その律法学者やパリサイ人は、捕まえた女の人を、イエス様のところへ引っ張っていきました。

5. 「イエス様、この女は悪い女ですぞ。次々と男の人たちと面白おかしく遊んでばかり、しかも奥さんのいる男の人とも仲良くしとるんです。実にけしからんですな！」

「そうですとも、こんな女は、石を投げつけて殺してしましましょう。イスラエルでは、昔からそうしてきたじゃありませんか！！」

- ・・・と、こんなことを言っていますが、実はこれは、イエス様に対するワナだったのです！

6. 「フッフ…、イエスめ、お前はいつもワシらをバカにして、みんなの人気者になって、ワシはお前のことが大嫌いなじゃ。ようやく仕返しをする時が来たぞ。ふん、お前がこの女の何をどうするか、見ものじゃ。もし『許さない』と言ったとしたら、『おいイエス、お前はイスラエルの規則をやぶるのか！』と責め立ててやる。逆に、もし『石を投げたらいいだろう』などと言ったら、『おいイエス、お前は普段は愛が大切だとか言っているが、この女を殺すつもりなのか!? お前はとんでもない嘘つきだな！』と責め立ててやる。ふん、お前がどっちに答えたとしても、お前はもう逃げられないんだよ。フッフッフッフ…」

そうです、こんなズルイことを考えていたんですね。イエス様の大ピンチ、さあ、イエス様はどうする？

7. 「お前たちの中で、罪のない者は、この女に石を投げなさい！」・・・と、そうイエス様はおっしゃいました！

イエス様は、この女の方の苦しみ、悲しみを、よ～く知っておられたんですね！ この女の人だって、好きで悪い遊びを繰り返していたわけじゃありません。色々な悲しみ、そしてさびしさ、孤独、そんな苦しさに耐え切れず、悪いことと知っただけで、どうすることもなかったのです。

そこに集まった人たちの中で、この女の方の悲しみに気付いていた人は誰もいませんでした。ただこの女の方を責め立て、更にはイエス様をワナにかけようとしていただけだったのです。でもイエス様は違いました。

8. 律法学者やパリサイ人、そしてそこに集まった人たちはビックリ！ だってそうでしょう、罪を犯したことの無い人なんて、誰もいません。誰だって、ウソをついたことがあるし、わがままを言ったことがあるし、人を傷つけたことだってあるんです。

だから、「罪のない者は、この女に石を投げなさい。」なんて言われても、誰も石を投げることで出来なかったんです。

9. そして、年をとった人から順番に、そこから立ち去って行きました・・・。

10. 女「私に石を投げる人は、もう誰もいません。イエス様、ありがとうございます。そして、今まで悪いことを繰り返してきた私を赦してください！」

そしてイエス様は、女の方に向かってこうおっしゃいました。

11. 「わたしもあなたを罰しない。お帰りなさい。今後はもう罪を犯さないように」 ヨハネ 8 : 11

イエス様はこうおっしゃって、女の方の罪を赦してくださいました。

12. イエス様に赦された女の方は、イエス様を愛し、神様を第一として、生きていく決心をしたでしょう。今までは悲しみに満ちた毎日でした。でもこれからは、神様に赦された喜びにあふれた毎日なのですから！

よかったね、ホントによかったね。 おしまい。